

## Support Kids Program

# 第3回 子どもの療養環境改善寄付金 寄付金贈呈先活動

### 宮崎大学医学部付属病院(宮崎) 『ようこそわたしたちの美術館へ見て見て！わたしの作品』



病院内の雰囲気を、安心できる環境に整えること、子ども達に新たな遊びを提供することを目的に、入院中の子どもとそのご家族が描いた絵を病棟の廊下に展示。子ども達とそのご家族だけでなく、小児科スタッフや他科の医師も立ち止まって楽しんでいます。

### NPO 法人メンタルケアなないろの森(愛知)

### 『なないろの魚の水族館』



家族から離れて療養している子ども達の不安感、孤独感などのストレスの軽減を目的に、絵本を題材にして、子ども達がすごろくをしながら自分の魚を創ることや、普段あまり使わない絵の具で、混色の驚きや楽しさを味わいながら「なないろの魚の水族館」を作成します。普段見かけない大きなすごろくへの好奇心からか、プレイルームではあまり遊ばない子どもや、最初は遠慮していた子どももすぐに自発的に楽しんでいました。

### 育ちあう人間関係研究所(愛知)

### 『からだをゆるめてほっとコミュニケーション』



療養中の子どものご家族が、不安な子どもの心に寄り添うためのコミュニケーションの方法を知ること、子どもの自己受容を高め、子どもが積極的に療養生活を送ることを目指し、親が子どもの話を聞くコツを紹介します。また実際に、ご家族が抱えているストレスを“聞いてもらう”ということを通じて、話を聞くとうことの重要性を体験し、親が子どもの話を聞く心の余裕を促します。

### 豊橋市民病院小児科(愛知) 『赤ちゃん、寝たきりの子ども達をプレイルームへ連れ出そう！！』



入院している子ども達の5割強が0～3歳未満児にも関わらず、プレイルームが板張りのため、利用者は幼児学童中心でした。寄付金で、乳児や重症患児が安心してプレイルームで遊びを楽しめるスペースを作るためにマットやおもちゃを購入。0～3歳児の子ども達も遊べるようになり、プレイルーム利用率が増加しました。

### 長良医療センター(岐阜)

### 『わーい、先生大好き！先生がサンタさんだ！！』



医療従事者は子どもにとって、痛いこと・嫌なことをするといったイメージがあります。そのため、年間行事に医師なども参加し、子ども達・ご家族が医療従事者に親しみが持てるようにしました。クリスマス、節分、子どもの日等のイベント時に、医療従事者が仮装して登場。患児も仮装が先生だと気がついて大喜びしていました。

## 東京北社会保険病院(東京)

## 『わくわく にこにこ ハイポーズ』



感染症での入院が多いため、部屋から出られない子ども達が多い中で、より子ども達の不安やストレスの少ない環境を目指して、病棟イベントでの写真カードや、退院カード、お誕生日カード等を作成しました。ご家族にとっても、イベント時に子ども達がみせる楽しそうな姿に、喜びや安心を感じられるものとなり、カードが貴重な記念となりました。

## 大阪大学医学部附属病院(大阪)

## 『人形劇・ごっこ遊びでリハーサル！』



「いやなこと、こわいことが、ちょっと安心、きっと大丈夫」をテーマに、チャイルド・ライフ・スペシャリスト（子ども達とその家族の心のケアを行う専門家）が病院内で活動。医療に関わるテーマを、遊びを通じて子ども達が理解することで、恐怖や混乱をやわらげ、子ども達が自信と安心感をもって医療行為に迎えられるように、医療行為の模型や人形等を用意しました。また、子どもが「守られている」「尊重されている」という安心感を持って処置を乗り越えていくことができるよう、遊びや、安心できる人と手をつなぐ等工夫をしてサポートしています。

## 大阪市立総合医療センター(大阪)

## 『まいど～！ワゴン de プレイルームがやってくる♪』



ベット上や個室隔離を余儀なくされ、プレイルームで遊ぶ機会が制限される子ども達が、ベットサイド活動の充実を図るため、おもちゃを載せたワゴンを導入することで遊びの環境を提供しました。また、やさしい光で心地よい空間を演出するセンサー・スノーブレンの導入で、子ども達に心地良い、非医療的環境の提供を試みました。

## 愛知県青い鳥医療福祉センター（愛知）

## 『いたいの いたいの とんでいけ！』



手術後、ベッドで安静を強いられる子ども達の不安や痛み、緊張を和らげることを目的に、居室空間の就寝環境や壁面に工夫をし、あたたかく安らげる空間作りに配慮しました。また、手術後の部屋に専用のおもちゃカートを用意することによって、子ども達が遊びを通じて安心できる時間を確保することが可能になりました。

## あいち小児保健医療総合センター(愛知)

## 『わくわく読書で、ドキドキ気分を吹き飛ばせ！』



子どもとその家族が外来待合時間のストレス発散や診察前後の不安・緊張の軽減を図ることは、事故予防やスムーズな診察へつなげるために重要です。これまで主に乳幼児対象であった本に、新たに小学生高学年向けの本を購入し、外来ライブラリーの充実を図りました。